

職リハ学会通信

No.183 2025年 9月発行

目次

新副会長あいさつ……………	2P
第52回兵庫大会のご報告……………	3P
運営理事会報告……………	4P
臨時運営理事会報告……………	6P
委員会報告……………	7P
事務局からのお知らせ……………	9P

新副会長あいさつ

このたび、日本職業リハビリテーション学会の副会長に就任いたしました前原和明（まえばら かずあき）です。このような大役を仰せつかり、大変光栄に思っております。これからは副会長として、会長を支え、日本職業リハビリテーション学会の発展に貢献していきたいと考えております。

これまで私は、地域障害者職業センターや特別支援学校での職業リハビリテーションの実務や研究に関わってきました。私の中には、実践と研究という二つの側面があり、これらをつなげていくことを本学会の中で取組んできました。本学会に参加する中で、たくさんの実践者の方

や研究者の方と語らい、実践と研究をつなぐための多くの学びを得ることができました。これは現在の私を作り上げる貴重な体験となっています。このような学会の中で得た恩を還元していくためにも、学会員の皆さんが学会という場でつながり、互いに高めあっていくことができるための努力をしていきたいと思っております。

至らぬ点多々あるかと存じますが、皆様と力を合わせ、学会の未来を切り拓いていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新副会長 前原和明



第 52 回兵庫大会のご報告

「407 名の方にご参加いただきました。ありがとうございました！」

2025 年 8 月 22 日（金）・23 日（土）の 2 日間、神戸市産業振興センターにて第 52 回兵庫大会を開催いたしました（大会長：井澤信三先生／実行委員長：星明聡志）。大会テーマは「インクルーシブな社会を目指すために～今一度、アセスメントの本質を問う～」とし、407 名を超える方に参加していただきました。ご参加の皆様、誠にありがとうございました。

● 大会テーマ

「インクルーシブ」とは、障害者や高齢者、外国人、LGBTQ+ など、多様な背景を持つ人々が尊重され、排除されることなく安心して参加できる社会を指すものでもあります。その実現に向けて重要なのは、一律の対応ではなく、個々の特性に応じた環境整備です。一人ひとりにふさわしい場や地域との「相性」を考え、それを支える「アセスメント」のあり方を問い直すことを大会テーマに込めて開催させていただきました。

● 大会初日の様子

初日の午前は「研修基礎講座」（「就労支援の基本：基礎からキャリア形成まで」「多職種・組織間連携」）を実施し、それぞれ約 100 名の方が参加くださいました。

また、開会式後には、井澤大会長による基調講演「インクルーシブとアセスメントを考える～行動分析学からのアプローチ～」が行われ、その後の基調シンポジウム「これからを切り拓くために-就労支援の歴史と知識の活用-」にも多くの参加がありました。

● 情報交換会

夜は恒例の情報交換会を開催し、定員を超える参加がありました。参加者同士の交流は大変活発で、互いの実践や研究を語り合う場は和やかで熱気ある雰囲気に包まれていました。

● 2 日目のプログラム

2 日目はメインのハーバーホールを含む 4 会場で 15 のプログラムが開催され、多彩な内容が展開されました。ハーバーホールでは以下のシンポジウムが行われました。

・政策委員会企画：「障害者就労支援士検定の創設に向けて」

・国際委員会企画：「東アジアにおける職業リハビリテーションの現状と課題」

・大会企画シンポジウム①：「中小企業が考える自立とやりがい」

・大会企画シンポジウム②：「就労選択支援のこれからと地域の実践」

また、実行委員による 4 つの大会企画ワークショップ（例：「震災から 30 年、未来へ繋ぐ就労支援」「アセスメントの基本と実践」など）では、多様な視点から議論が行われました。また、ポスター発表は英語 7 本を含む 29 本が展示され、国際的な交流も盛り上がっていました。

● おわりに

本大会には研究・実践発表 21 本、ポスター 29 本、自主ワークショップ 9 本が集まりました。約 1 年にわたる準備を経て、関係者の皆様のご協力に支えられた大会となりました。

学会は、科学的知見を検証・共有する場であるとともに、参加者同士の交流を通じて新たな研究・実践の広がりを生む場でもあります。今回の兵庫大会も参加者の皆様にとってそのような場になっていたら嬉しいです。

参加者、発表者、運営に携わった全ての方々に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第 52 回兵庫大会実行委員長 星明聡志